

## チームオレンジ参加者を 募集しています

今月

は 社会福祉士 畑山 賢二 です

2025年には認知症患者が700万人を超える見通しで、社会問題として深刻化する昨今、より地域で支える仕組みが重要とされており、本テーマについては令和2年10月号の記事でも同じく取り上げました。今回は、地域支援の一つの社会資源となる「認知症サポーター」、更にはサポーターがチームとなって活動する「チームオレンジ」について取り上げてみたいと思います。

### ●現状と目標

認知症の人は自分の障害を補う「杖」の使い方を覚えることができません。「杖」のつもりでメモを書いてもうまく思い出せず、何のことかわからなくなります。認知症の人への援助には障害を理解し、さりげなく援助できる「人間杖」が必要です。

(※認知症サポーター養成講座標準教材より一部抜粋)

町のあらゆるところに、温かく見守り適切な援助をしてくれる方がいれば、より快適な地域生活が期待できます。



### ●認知症サポーターとは

何か特別なことをするものではなく、認知症について正しく理解し、偏見なく認知症の人や家族の地域生活を応援する人です。平成17年から全国での養成が進み、現在は約1,300万人のサポーターが誕生しております。



### ●チームオレンジとは

認知症サポーターが正しい理解を得たことを契機に、自主的に行ってきた活動をさらに一歩前進させ、地域で暮らす認知症の人や家族の困り事と認知症サポーターをより結び付けるため、サポーターをチーム化し、平成31年度（令和元年度）から「チームオレンジ」の取り組みが全国的に開始されております。



認知症サポーターの証  
「オレンジバンド」

国は『認知症施策推進大綱』で、認知症サポーターについて、単に量的拡大を図るのみではなく、認知症の方にあつた具体的な支援につながる仕組みの構築と、サポーターの更なる活躍の場を整備することが掲げられています。

当町においても、地域包括支援センターへ日々寄せられる相談内容について、約10年前と比較してみても圧倒的に「認知症に関わる相談」が多く、ほぼ毎日のように対応しています。このような状況下で地域包括支援センターとしても、令和4年度から本格的に「チームオレンジ」の整備をしていきたいと考えているところです。

「認知症サポーター」として登録し、地域で活躍してみたい方がおられましたら、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ：保健福祉課 地域包括支援センター  
☎ (0139) 55-4460